





§  
§  
§  
§  
§  
§  
§

「地球にやさしく」「人にもやさしい」乗り物  
目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
目標13：気候変動に具体的な対策を  
～ from 4Gr. (K. Hさん執筆)



3年ぶりの制限の無い夏休み、皆さんは何処かに出かけられましたか？  
コロナの第7波もあり自宅で大人しくしていた方もいらっしゃるかも知れませぬ。そんな中、私も迷いつつ、お墓参りで四国・九州に行ってきました。そこで、今回は私が使った移動手段であるフェリーをご紹介したいと思います。私たちの生活圏である関西は瀬戸内海に面していて、その瀬戸内海には多くのフェリー航路があるのをご存じでしょうか？トラック輸送の世界では、昔から「モーダルシフト」の1つの手段としてフェリー輸送が注目されていました。モデルケースですが、比較的近い場所にフェリー航路がある場合には港から目的地までの移動を含めても全ての行程をトラックで移動するより二酸化炭素の排出力は1/6で済むそうです。今回、このEMSジャーナルの執筆依頼が来た事もあり、ふと「この旅行でフェリーを使った結果、どのくらいの二酸化炭素排出を抑えることが出来たのか」が気になりました。調べてみると、日本長距離フェリー協会のホームページで比較計算する事が出来るとわかりました。  
※ 何でもネットにあるもんですね。

目的地（福岡県某所）と自宅（兵庫県某所）の間を全て自家用車で移動した場合二酸化炭素の排出量は、およそ74kgだそうです。一方で途中の新門司港～大阪南港間でフェリーを利用した場合の二酸化炭素排出量は、港までの自家用車での移動を含めおよそ27kgとなり、全行程を自家用車の場合に比べ約64%の削減となりました。トラックの様に1/6とまでは行きませんが1/3程度には抑えられた様です。

瀬戸大橋や明石海峡大橋の開通で残念ながら短距離のフェリー航路は廃業が続いていますが関西と九州を結ぶ航路は、この数年「新造船」のラッシュとなっています。昔に比べ船内も非常に快適になっていますし、今より更に二酸化炭素の排出量を削減し且つSOx（硫黄酸化物）もほぼ排出しないと言うLNG（液化天然ガス）燃料フェリーも就航しています。皆さんも旅行に行かれる際にはフェリーと言う交通手段を選択肢の1つとして考えてみてはいかがでしょうか。今回のフェリーの感想は「地球にやさしく」そして「人にもやさしい」乗り物でした。何と言っても、夕方乗り込んで、「飲んで」「寝て」「目が覚めたら」九州です。  
地球にだけでなく運転手にとってもとても優しくかったです。笑



§  
§  
§  
§  
§  
§  
§

「食べられるスプーン」で目指す環境保護・食育  
目標14：海の豊かさを守ろう  
～ from 7Gr. (T. Kさん執筆)



最近、マ\*\*\*\*のストローがプラスチック製から紙製になったことはご存じでしょうか。これはプラスチックごみの削減に向けた取り組みの一環でSDGsの17の目標のうち、14番の「海の豊かさを守ろう」に関連しています。こういったプラスチックごみをなるべく減らす工夫は、近年様々な企業で実施されてきていると思いますが、今回は、「PACOON（パクーン）」という製品をご紹介したいと思います。

「PACOON（パクーン）」は、株式会社勤労食で提供されているスプーン型のクッキーで、「食べられるスプーン」と呼ばれています。例えば、おやつを食べるときのスプーンとして使用し、最後はスプーンごと食べる、といった用途になります。株式会社勤労食は、主に学生食堂・社員食堂の運営をされていて、運営を通じて働く人の健康を食事から守るという取り組みをされている企業です。なかでも「PACOON（パクーン）」は、「環境保護」「食育」の2つの理念に基づいています。

「PACOON（パクーン）」はかぼちゃ、抹茶、おから、ビーツ、いぐさといった野菜の味がメインになっていて、その原材料も、国産野菜や無添加の自然素材が中心です。プラスチックごみにならないスプーンという「環境保護」の側面だけでなく、  
・子供たちの野菜摂取の習慣づけのきっかけになる  
・しっかり噛めるかたさもあり、脳の活性化にも大切な「噛む習慣」に繋がる  
・農家とコラボし、規格外で捨てられるような野菜を原材料に充てられる  
というように、「食育」の側面でも様々な工夫がされています。

今まではレストラン等に導入されることが多かったですが、現在では防災備品の非常食としての扱いを想定した取り組みも検討されており、「PACOON（パクーン）」が今後色々なところで見られるようになっていくかもしれません。公式サイトで一般家庭用の通販もされていますので、気になった方はぜひチェックしてみてください。

■編集後記■ニュースに「3年ぶりの」の枕詞がつくようになりました。コロナ明けが期待できそうです。今年もジャーナルの執筆ありがとうございました。ここに紹介しきれなかった分も含め、寄稿内容は参考にしたいと思わせる珠玉の逸品ぞろいです。次年度も継続して発行しますのでご協力をお願いします。

